

平成 24 年 6 月 26 日
復 興 庁

東日本大震災からの復興状況の把握手法について

東日本大震災によって被災した自治体が、各々の復興状況を自ら把握する際に活用できるよう、復興状況の把握に関する各種指標及びその分析手法について報告がとりまとめられましたので、公表します。

1. 被災自治体における復興計画の分析

被災自治体（8 県及び約 70 市町村）の復興計画から、多くの自治体が行っている主要事業（39 項目）を抽出（資料 1）。

2. 復興状況を把握するための指標の設定及び分析手法の提案

- （1） 1 でみた主要事業ごとに、復興の進捗状況の把握が可能となる指標（マクロ指標、ミクロ指標各 39 指標）を設定（資料 2）。
- （2） 上記指標をもとに得られたデータの分析手法（集計方法等）を提案（資料 3）。

3. 実施主体に応じた課題提案

国・県・市町村のそれぞれの実施主体に応じて、2 でみた指標及び手法の活用方法、また今後の課題について、提案。

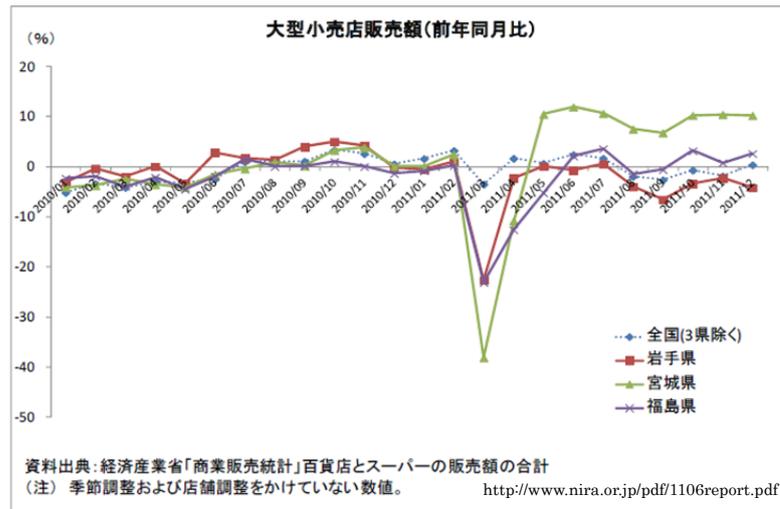
- （課題例）国 …復興の全体像について、継続的に把握すること重要。
県、市町村 …各被災自治体単位での統計データ、及び住民の復興意識に関するアンケート調査等を必要に応じ行い、復興状況を住民に情報提供することが重要。

本件連絡先：復興庁 調査 1 班 倉井、砂場
TEL:03-5545-7232

マクロ指標及びミクロ指標の分析手法例

(1) マクロ指標では、時系列変化を比較することで、震災の影響や復興状況を把握することが一般的である。

例：大型小売店販売額の時系列変化を示す。ここでは、災害の影響を考慮するため、災害の影響が少ない全国の同種の大型小売店販売額の変動成分を利用している。

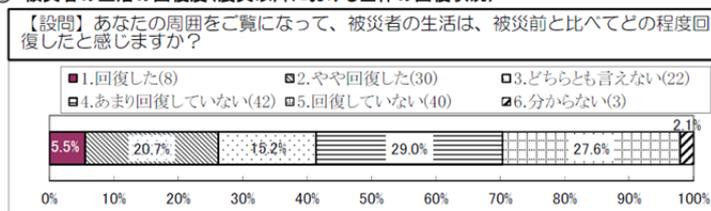


マクロ指標の分析例 (大型小売店販売額)

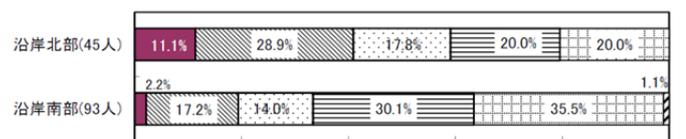
(2) ミクロ指標では、調査対象集団の意識や行動のある時点での比較、及び集団の意識や行動の時系列変化の比較により、震災の影響や復興状況を把握することが一般的である。

例：いわて復興ウォッチャー調査は、今後定期的に、同じ回答者を対象とした継続調査である。その第1回が今年2月に行われたので以下に紹介する。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)



<地域別>



http://www.pref.iwate.jp/~hp0212/fukkou_net/pdf_doc/watcherchosa_2401.pdf

ミクロ指標の分析例 (いわて復興ウォッチャー調査)